

動詞の活用 確認テスト（九種類の見分け） 解答・解説

■ 解答・解説

問1 四段活用／「咲く」に「ず」を付けると「咲か（さか）ず」となり、直前が「か＝ア段」なので四段活用。

問2 「さかず」／「ず」のすぐ上の音は「か」で、ア段。よって四段活用と分かる。

問3 四段活用／「聞か（きか）ず」となり、直前が「か＝ア段」なので四段活用。

問4 四段活用／「書か（かか）ず」と、すでに「ず」が付いた形。直前が「か＝ア段」なので四段活用。

問5 未然形／「書か」は下に打消「ず」が付いており、未然形。

問6 下二段活用／基本形「出づ」。「出で（いで）ず」となり、直前が「で＝エ段」なので下二段活用。

問7 連体形／「出づる」は体言（「を」を受ける名詞的なまとまり）に続く形で、下二段活用の連体形。

問8 上二段活用／基本形「起く」。「起き（おき）ず」となり、直前が「き＝イ段」なので上二段活用。

問9 「おきず」／「ず」のすぐ上の音は「き」で、イ段。よって上二段活用と分かる。

問10 連用形／「吹き」は下に接続助詞「て」が付いており、連用形。四段活用の連用形はイ段になる。

問11 上一段活用／「見る」は上一段活用（ひ・い・き・に・み・ゐの「み」にあたる）。語をまるごと覚える。

問12 上二段活用／基本形「過ぐ」。「過ぎ（すぎ）ず」となり、直前が「ぎ＝イ段」なので上二段活用。

問13 過ぐ（すぐ）／上二段活用の終止形。

問14 下二段活用／基本形「受く」。「受け（うけ）ず」となり、直前が「け＝エ段」なので下二段活用。

問15 受く（うく）／下二段活用の終止形。

問16 下一段活用／「蹴る」は下一段活用にあたる唯一の動詞。語ごと覚える。

問17 カ行変格活用／「来（く）」はカ変。「来（こ）・来（き）・来（く）・来（くる）・来（くれ）・来（こ／こよ）」と活用する。

問18 終止形／「はるばると都より来。」と言いつているので、カ変「来（く）」の終止形。

問19 サ行変格活用／「す」はサ変。「せ・し・す・する・すれ・せよ」と活用する。

問20 ナ行変格活用／「死ぬ」はナ変（ほかに「往ぬ・去ぬ」。「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用する。

問21 ラ行変格活用／「あり」はラ変（ほかに「をり・侍り・いますがり」。「ら・り・り・る・れ・れ」と活用する。

問22 ナ行変格活用／「往ぬ（いぬ）」はナ変。「死ぬ」と同じく「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用する。

問23 下二段活用／基本形「得（う）」。「得（え）ず」となり、直前が「え＝エ段」なので下二段活用。語数の少ない下二段の代表例。

問24 ⑦「見る」（上一段活用）。※上一段は「ひ・い・き・に・み・る」の語に限られる。

問25 ⑩「蹴る」（下一段活用）。※下一段は「蹴る」一語のみ。

問26 ⑪「来」（カ変）・⑫「す」（サ変）・⑬「死ぬ」（ナ変）・⑭「あり」（ラ変）・⑮「往ぬ」（ナ変）。

問27 <記述例> 動詞に「ず」を付け、「ず」のすぐ上（直前）の音が何段かで見分ける。直前がア段なら四段活用、イ段なら上二段活用、エ段なら下二段活用と区別する。

問28 <記述例> 下一段活用の動詞は「蹴る」。ラ行変格活用の動詞は「あり・をり・侍り・いますがり」の四語。いずれも語数が限られるので語ごと暗記するとよい。
